

大草谷津田いきものの里 自然観察会

春にであえるトンボやチョウチョ

西野 孝法（千葉市）

日 時：2023年5月21日（日）10時30分～12時 天気：曇り時々晴れ

参加者：20名（大人9名 子ども11名）

担当指導員：太田、萩、岡田（敬）、西野、藤井

朝のうち曇っていて虫が出るかと心配されたが、始まる頃には太陽が出てきて、気温が上がり、たくさんの生き物たちと触れ合った観察会となった。

参加者はリピーターの家族連れが多く、事前に話してはあったが、広場を下ったシイの樹液にいたオオスズメバチにも怖がる様子はなく、中にはそばに近寄って写真を撮るお母さんもいた。



頭・胸・腹と体が3つに分かれた、昆虫とは違う、またクモでもない「ザトウムシ」が足元にたくさん見られそうなので、始めに説明しておいたが、歩き始めるとすぐあちこちに見られたので、マイナーなムシにも興味を持ってもらえたかと思った。

歩き出してもチョウの端境期？なのか、時々飛ぶのはモンシロチョウくらいで、子どもらは手にした網をしばらく持て余し気味。それでも目につく毛虫やカタツムリについての質問があったり、慣れたふうにも朽木を引っくり返したり、クモにも目の行く子ども、とそばで見ていて楽しかった。

谷津田に出て、陽が差すと、トンボが飛び出し、子どもらは喜んで網を振る。飛ぶのはほとんどシオヤトンボで、捕る方はまだ幼い子なので、「振り回しても捕まえるのは難しいから、止まっているのに網をかぶせるようにすると捕れるよ」とアドバイス。なかなか捕まえられなかったり、虫がまだコワイという子もいたりしたが、捕まえることができると、「指チョコキで翅を挟んで持つ」ということは学習済みのようで、さすがリピーター！早速、お母さんが得意そうな顔を、スマホでパチリ。



田んぼの縁の台には、前日に捕っておいてくれたいろいろな種類のトンボのヤゴ、当日捕まえて見やすいように透明三角紙に入れたツマグロヒョウモンなどのチョウを見た後は、虫よりも田んぼのカエルに興味がる子どもも多く、カエルになったばかりのアカガエルや、まだ尾の残ったシュレーゲル、まだまだ小さいオタマジャクシ（アマガエルか？）などを追いかけていた。

最後に、「たくさんのムシと会えて楽しかった。」 印象に残った生き物では、「カエル」「イトトンボのヤゴ」「ミミズク（半翅目）」など感想をいただき解散した。

